



上 石

幼若清伽双家 中

二 讀 2
993
2



遠門
號 993
卷 2

勅老御伽雙紙中目録

一 男女持年嫁事 あし ぶらやま ますく ぶらう ぶらと

二 浴書乃事 うきま 二ヶ條

三 圓陳乃事 えん ちん 三ヶ條

四 同く中の一とてなをなをな事 おな 一ヶ條

五 異形浴書乃事 い ぎやう じゆく まよ 四ヶ條

六 ちりの強乃事 ちり ぢやう 一ヶ條

七 杜稗乃定目 ちり ぢやう ぢやうめ 一ヶ條



御伽雙紙

八 ひろひもの事 七ヶ條

九 なる屋物あやぐらの敷せきたる事 二ヶ條

十 四方よっぺの窓まどと一ひと刀やち少すくて七なな曜やうの切きり事

十一 かゝる四十八よんじゅうはち枚まい少すくてよよろろよよなるなるぬぬ事

十二 かゝるこのこのううああひひの事 二ヶ條

十三 鷲うし考かうののちちびびといいの事

十四 二ふたつつといいの事

十五 年とし敷せきととたる事

十六 ヒノキコひのきこといいの事 二ヶ條

十七 三角さんかくより十じゅう又また角かくのの内うちにに角かくととるる事

十八 又また何なに角かくももととるる角かくととるる事

十九 又また角かくととるる捷ちやう徑きんの事

二十 かかけててとと除すくててかかるる算さんのの事

廿一 合あひ否ひとと知ちぬぬの事 五ヶ條

廿二 八はちなるる事 六ヶ條

廿三 女子めの子二ふた方かたの事 二ヶ條

廿四 又また何なに事

廿五

九四 活きたー平方の事

九五 曲尺平方の事 三ヶ條

九六 字配用平方除州の事

勘者清伽雙紙中目錄終

勘者清伽雙紙中

一 男女持年嫁事

むう何ぐーとうやいひける人一人の婚とあんのり
わうもむもさうさうとさうさうさうさうさうさうさうさう
いささうおとつれ妻の花秋乃月のどくつらさう
ばさささささささささささささささささささささささささ
花のよそやひ又とやあさるるもつらねるる人けさう
せさうはたう一室よまことさうさうさうさうさうさうさう
あさるるさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

勘者清伽雙紙中

〇二



下又後

〇五



下又後

〇六

のこちをえられたる時家の家よきけ始の親よけれを
とらてあつくのこをきとけりまふふねやとありひ
まうけぬとあていふとたあらひひまうさせうあはざり
あをぬうとけよせちあつむごういそむげふあつらんや
まうあせとも年の年どけやけくたげひまぬせめて
おのちびあつらんうらんよ今公の年と写りて
そまうまたぬ女のよあれたぬぐはくのせとやうま
あうればさあひいといふ年とまうてたげひよまちび
たらんやあつひの時たびとんやとひとあつとととけり
こいけはさせが忘本あつあつぬいあつととてとも

くもとあんいひー破男いといさうねびてけと年
まうまき友とちれ算士よといけふ不即十六年
と一男の四十六歳女は三歳とあつととととととと
法とをさうーがを漸い人ととと

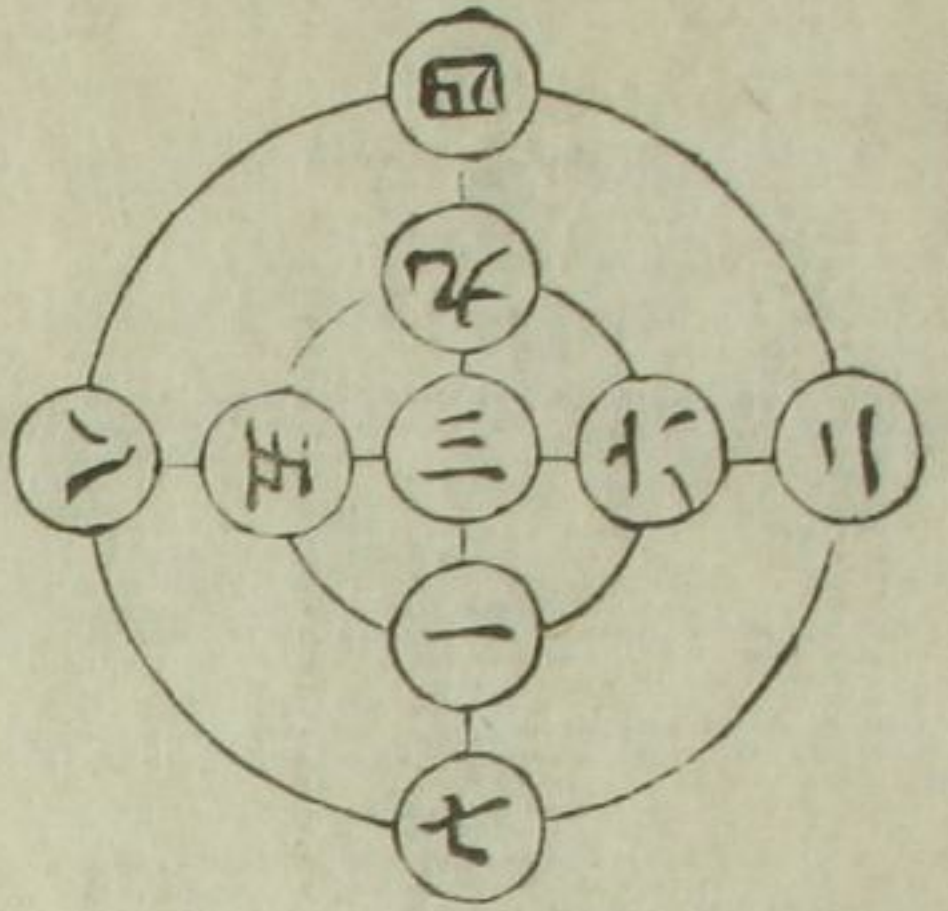
待十六年

答云男四十六歳

女二十三歳

法曰女子の年救とをさて倍と十四と救と男の
の救三十の内とそ引ひあつと十六と救は年也是
今の年乃救とらつたれ各の年の救とあつたなり

四 甲一く申の二とくてあり及やう乃事 ふた條



二徑二廻

何進も九

一径あり

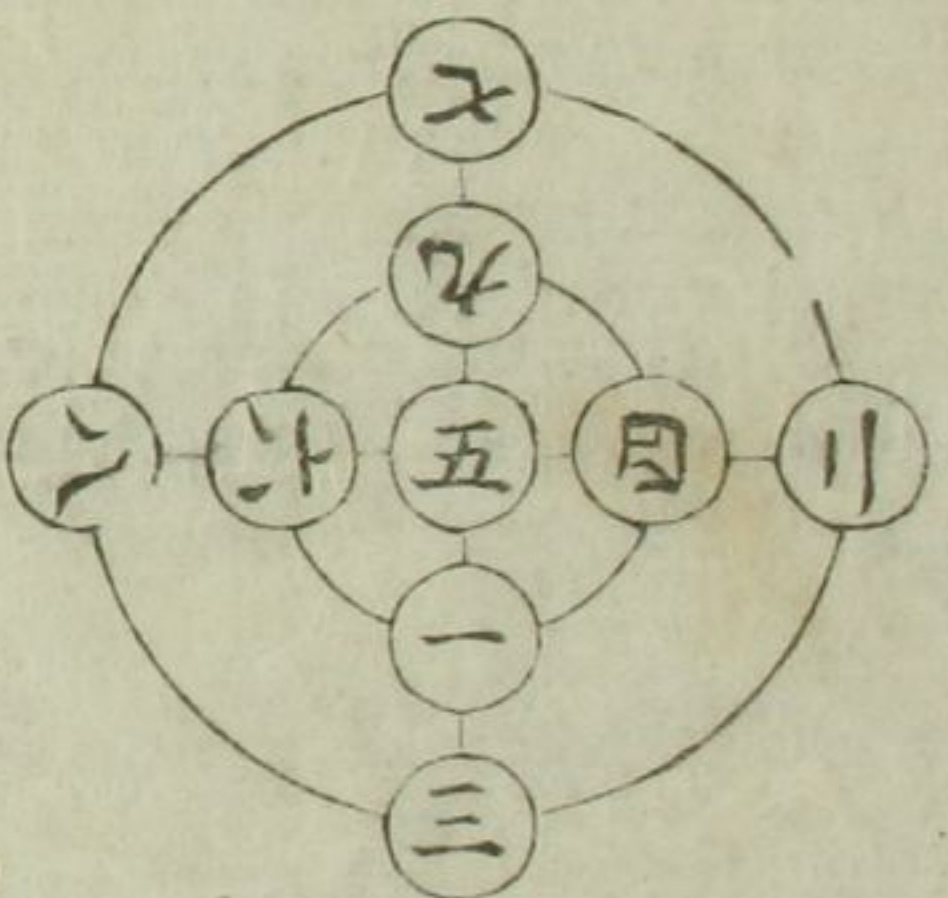
あり

二徑二廻

何進も十

九径あり

あり



二徑二廻

何進も九

一径あり

あり

二徑二廻

何進も十

八径あり

あり

六何徑何廻までもふ救 二徑二廻ある九あり三徑三廻ある十九ありとある御八徑の

救を倍して廻りの救とつけ定法一を加へてあるあり是も

其申よ最初よとて救二径 たよハ一より九まで又ハ一より十九までの類ハ二

徑三より一とそれハ六四より たよハ二より十まで又ハ二より二十までの類ハ三

とそれハ八也餘りの是より一を加へて内定法一を引餘よふ救残

け二より一とそれハ惣救 たよハ二徑二廻よて一より一とそれハ二三四五六七八九

とある也 九十九は合せて又十四ありがとてとある也 ハ内中よとて

但一次序よ其申のささめとて救ハ最神一あるハ一より

二あるハ二より徑の救をひととて たよハ二徑二廻のよとて

一よりあるハ二徑の救をひととて たよハ二徑二廻のよとて

二よりあるハ二徑の救をひととて たよハ二徑二廻のよとて

三よりあるハ二徑の救をひととて たよハ二徑二廻のよとて

四よりあるハ二徑の救をひととて たよハ二徑二廻のよとて

五よりあるハ二徑の救をひととて たよハ二徑二廻のよとて

六よりあるハ二徑の救をひととて たよハ二徑二廻のよとて

七よりあるハ二徑の救をひととて たよハ二徑二廻のよとて

八よりあるハ二徑の救をひととて たよハ二徑二廻のよとて

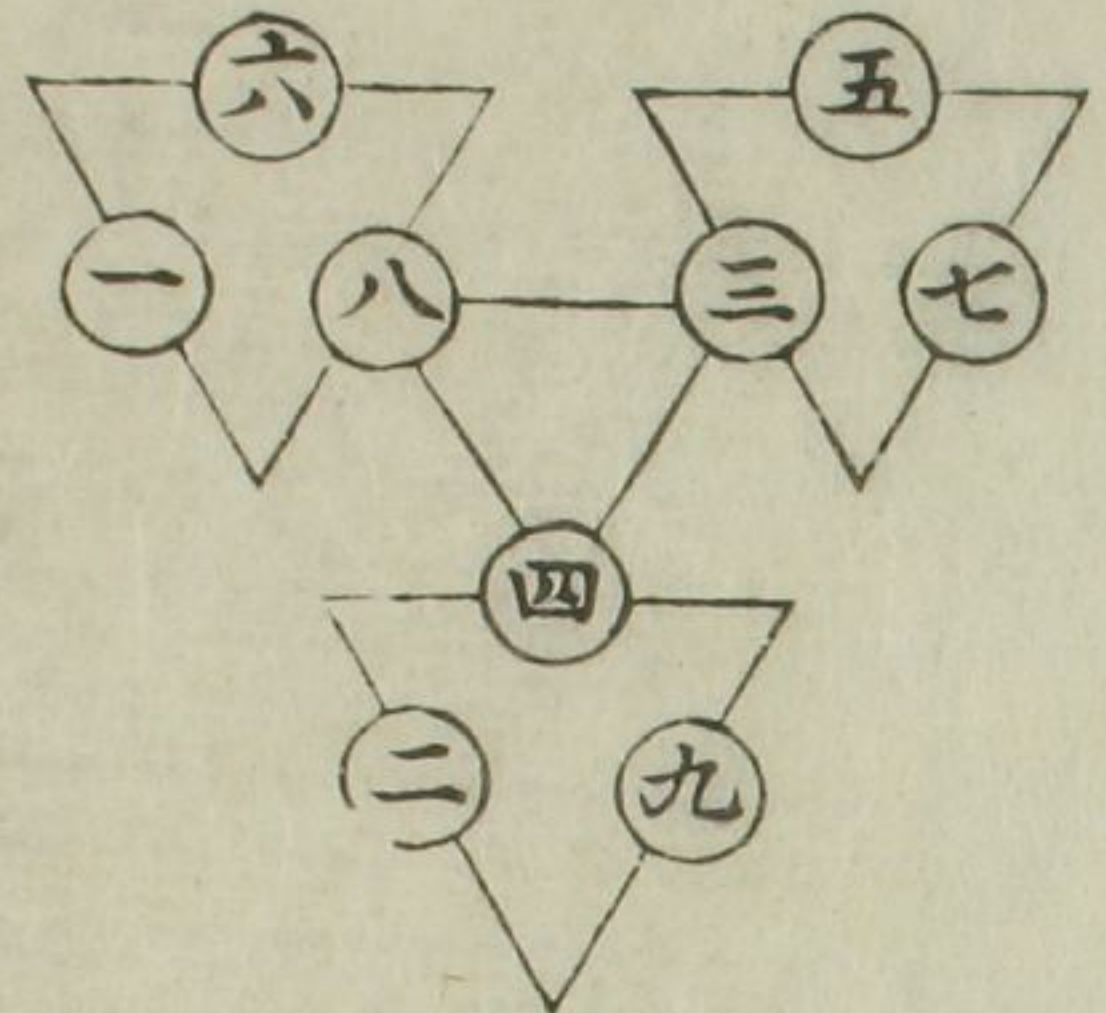
二	一	四	三
四	二	三	一
三	三	二	二
一	四	一	四

二	一	四	三
四	三	二	一
一	二	三	四
三	四	一	二

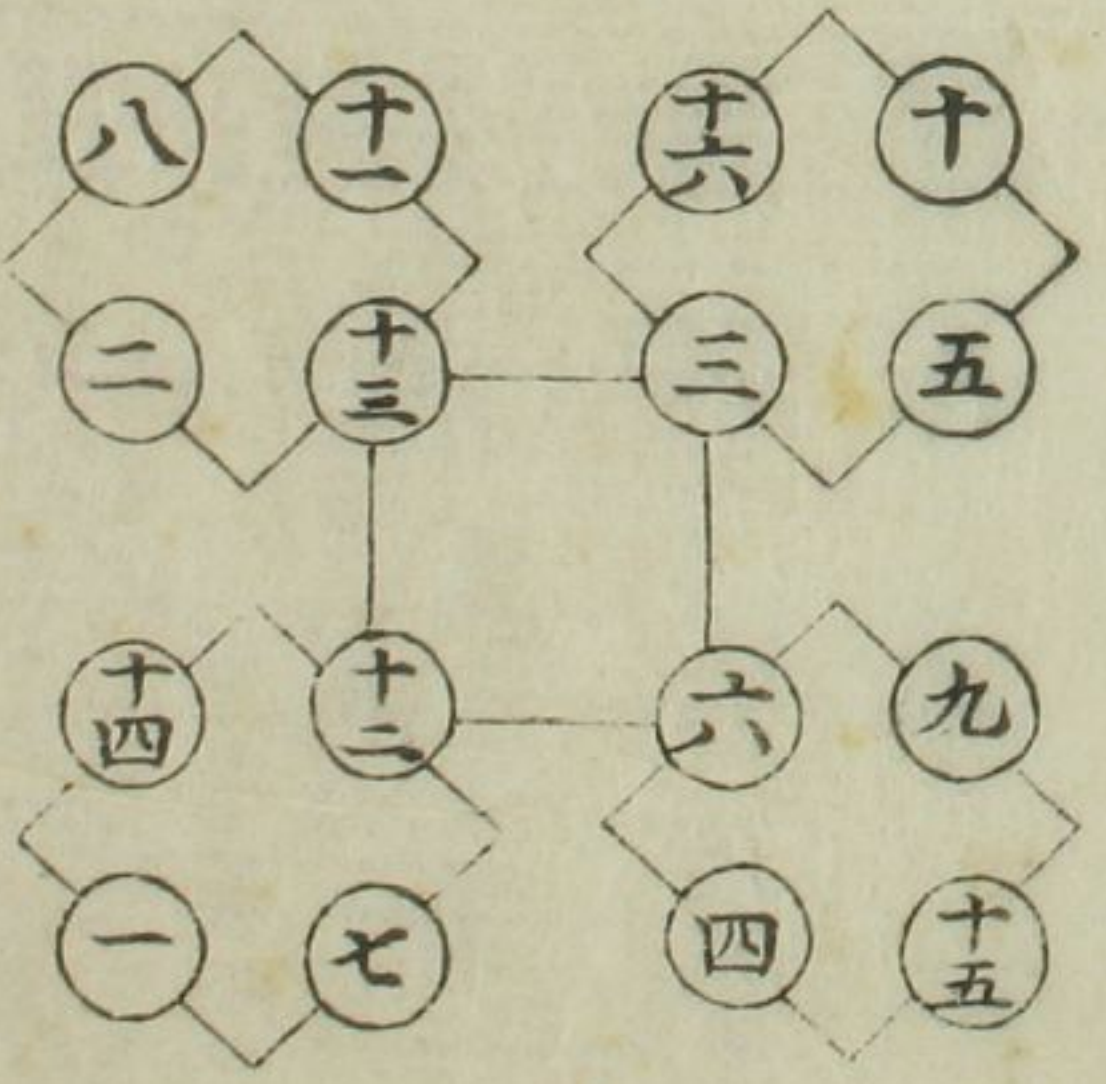
一	二	四	三
四	三	一	二
三	四	二	一
二	一	三	四

本意の通り是と三行のなすへやう一をより糸はなり四行
いさう 已ふ六変化多し作り考へえん 考へるを一二と考へるの
えん

たとはばより九までの数を三角にを配て十六つはうたの
 あらゆる事



たとはばより
 十六までの数を
 四角にを配て
 四つはうたの
 あらゆる事



とい とかうの強弱をさかひけりてきりぬ

ちうのさかむうをさかひけりてきりぬ
 よう四結まての寸とをてしむとむと目より末の方へへて

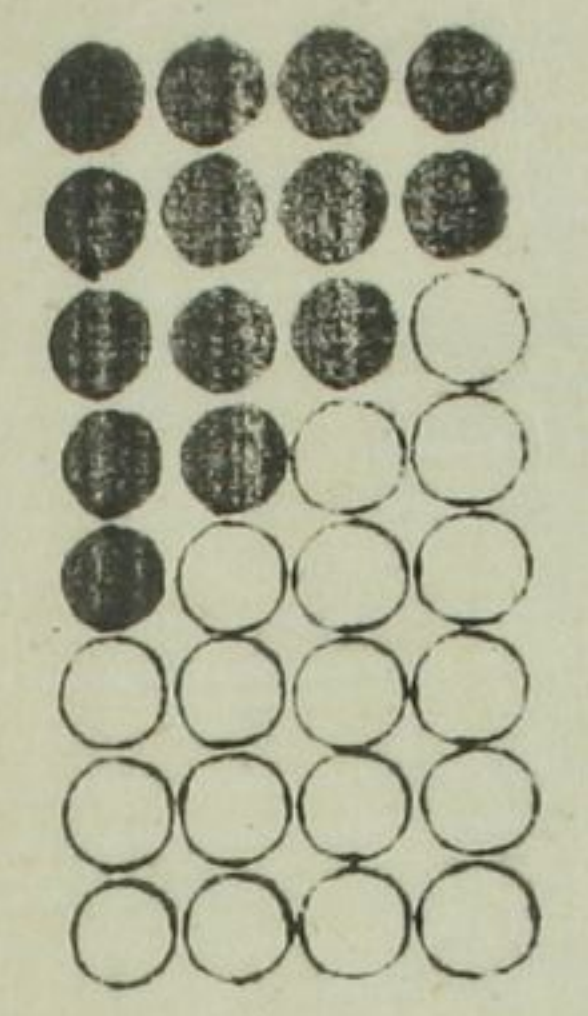
白ありある時懸敷を向

答云懸敷廿八

法曰廣のあは定法一を加してちとぬけ内換の二と引砂は
廣狭合たるをさうけり懸敷とまらぬ

又廣のさうけりはありとも片狭はあぶでたの思こら白あり
九の思あつ白こらある時懸敷と同

答云懸敷卅二

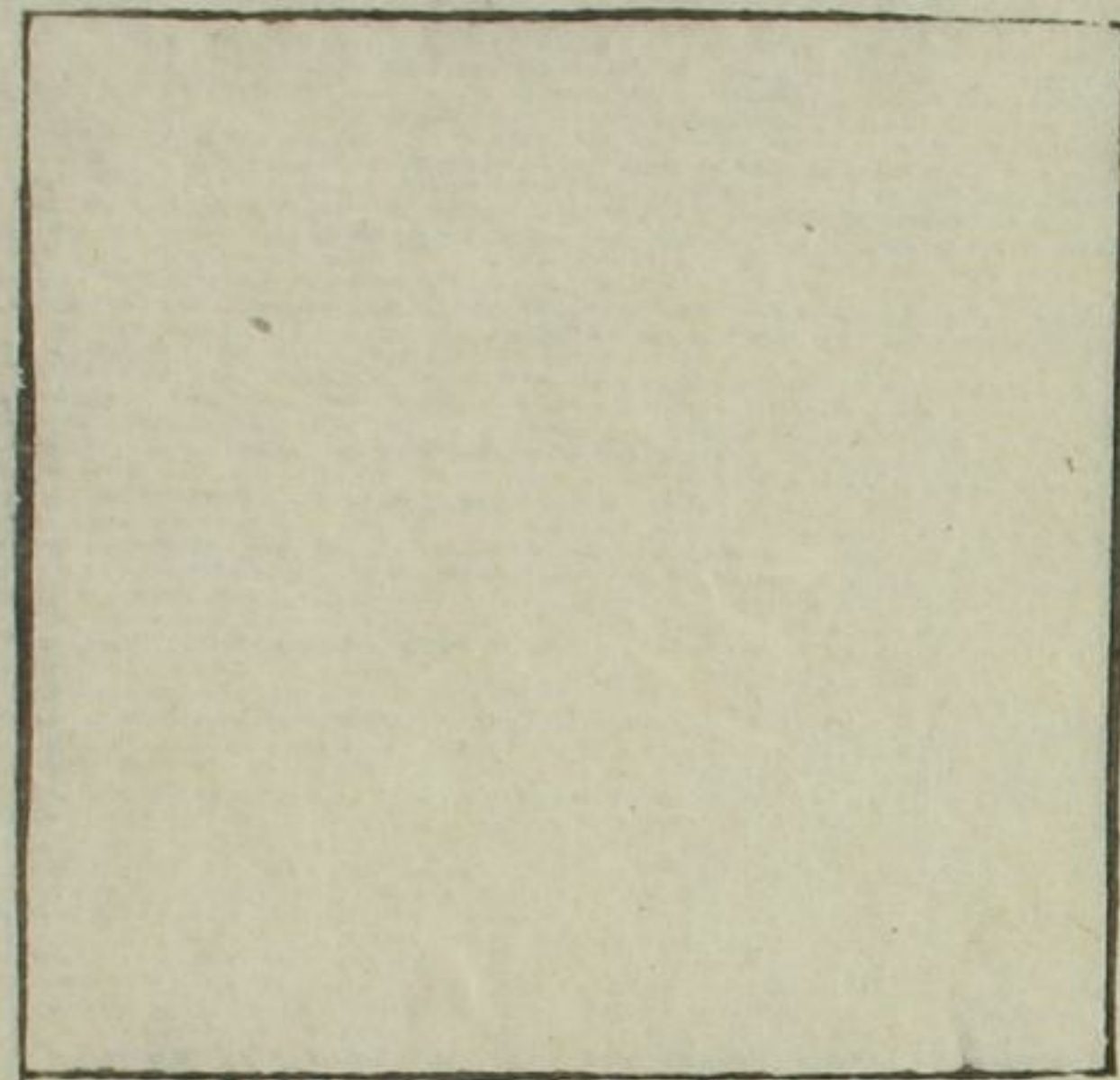


法曰たの思とたの思とていしてまを
方より少きをとり引砂算こら定法
一減加たの白思の敷合る八と懸て

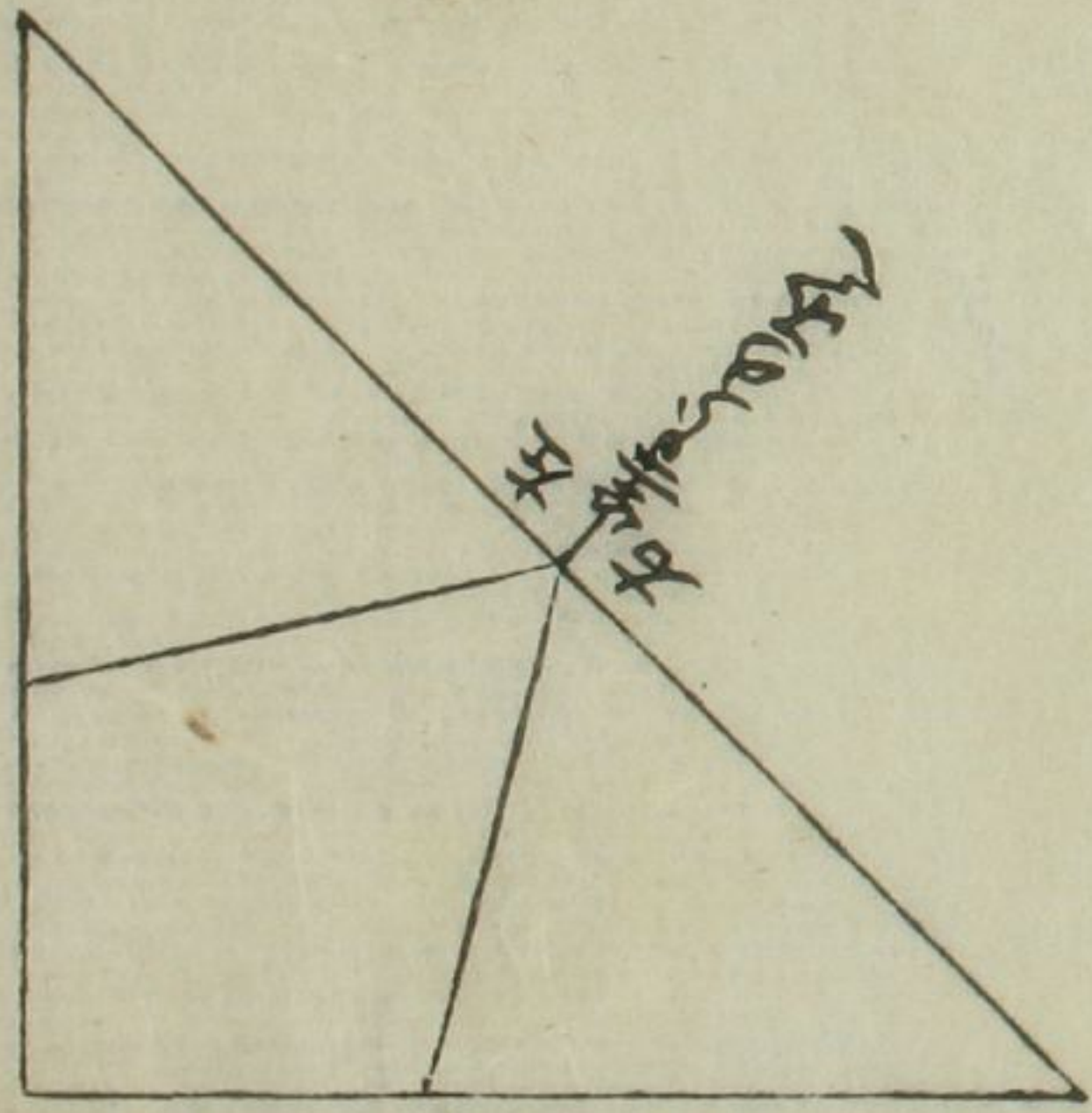
懸敷とまらぬ

十 四方ありの思と二刀ありて七曜は切ま

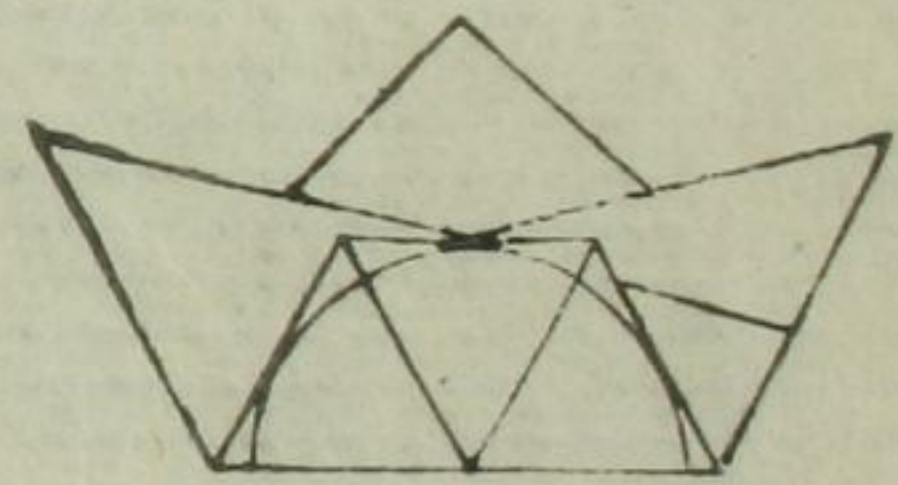
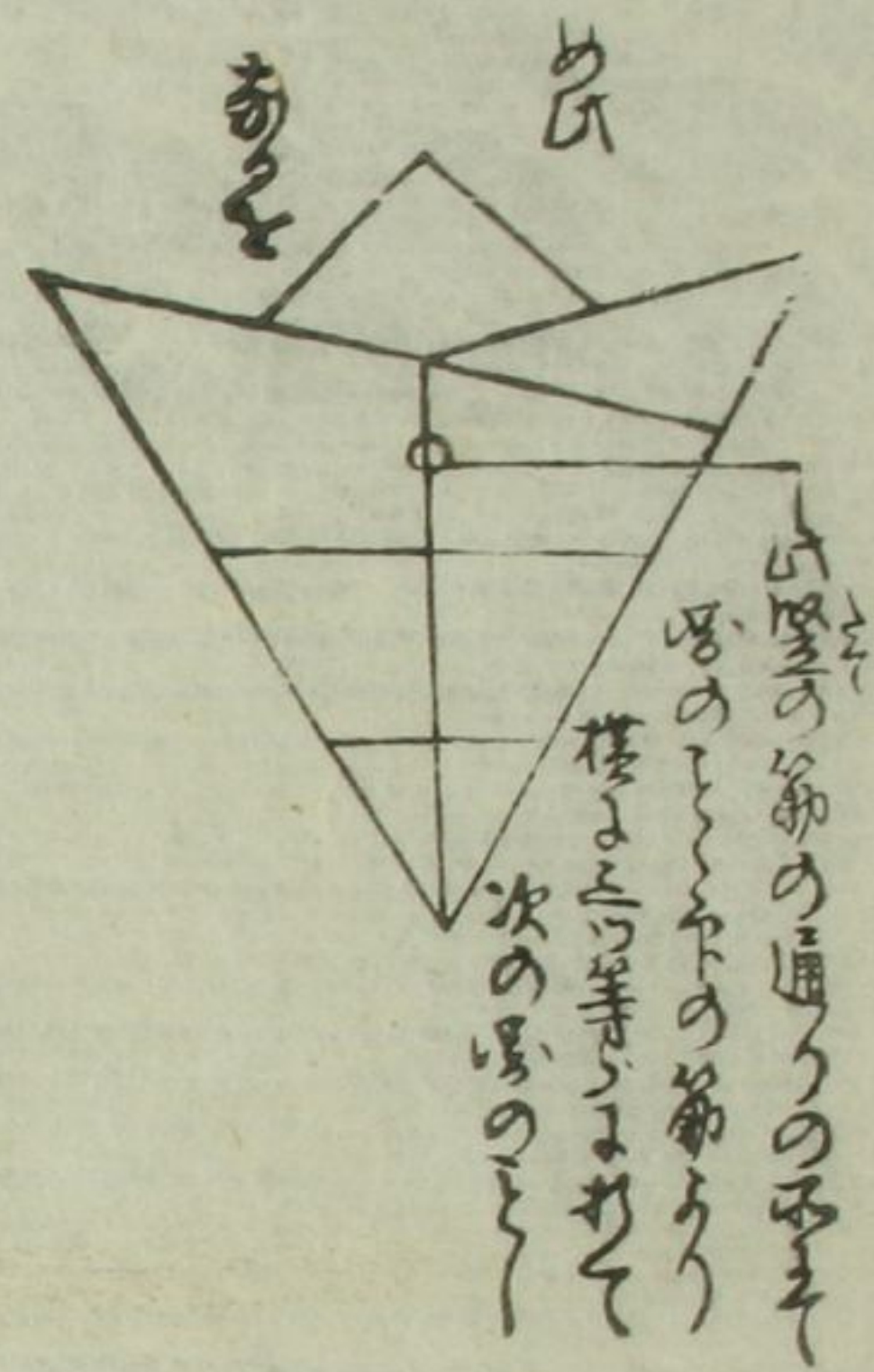
此の思は



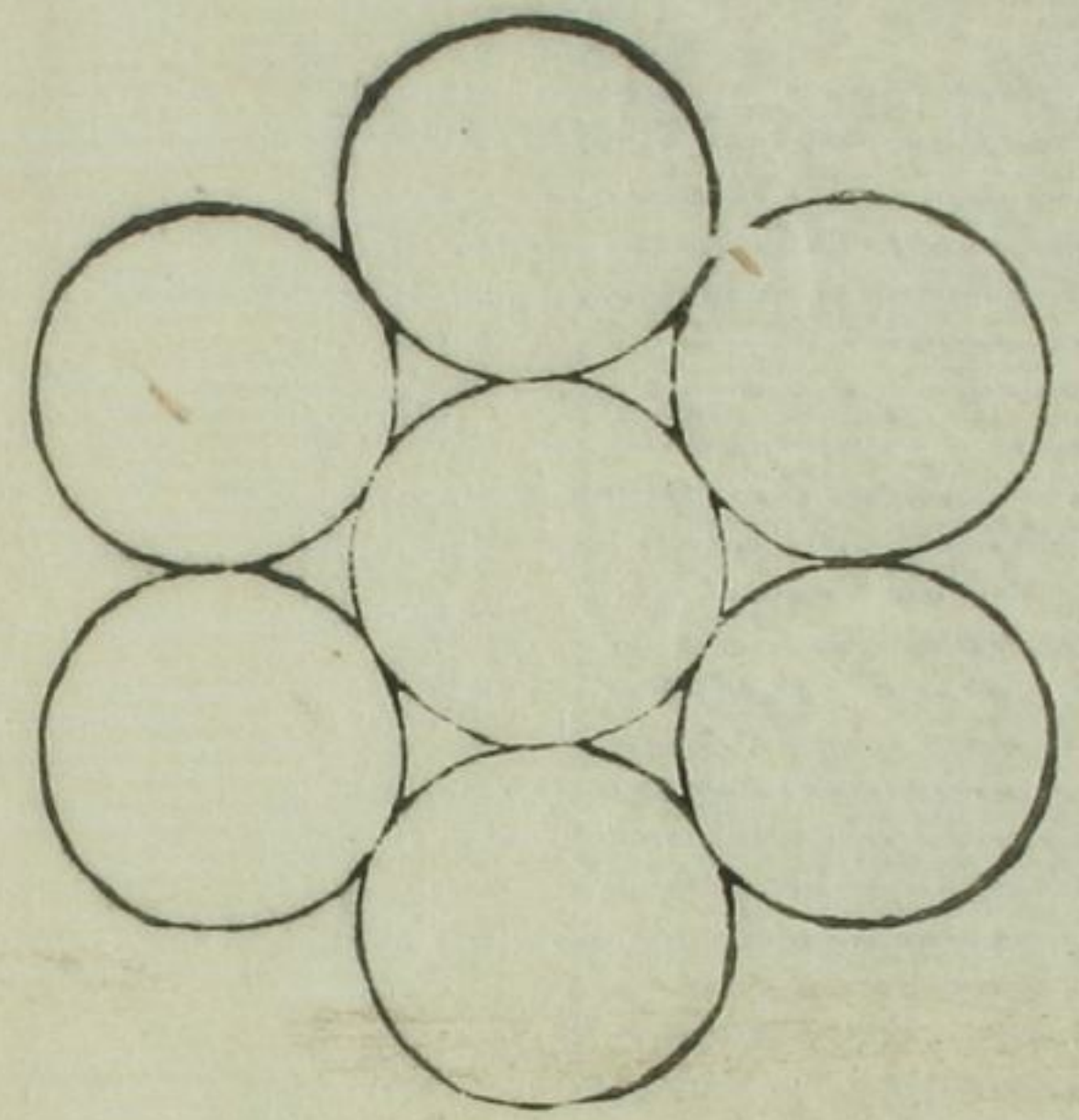
此の思は



めいあつて
思の中
二つの思の
合れとく
三つ思に
おて次
思のこ
ちあり
次の思
ありて
合ま



かくのこゝろありと
あまの九のこゝろ
切あり他こゝろあり
ありこゝろ方九の筋あり
付よ六重のこゝろあり
ともこゝろの方あり
一いをけあり
七曜こゝろあり



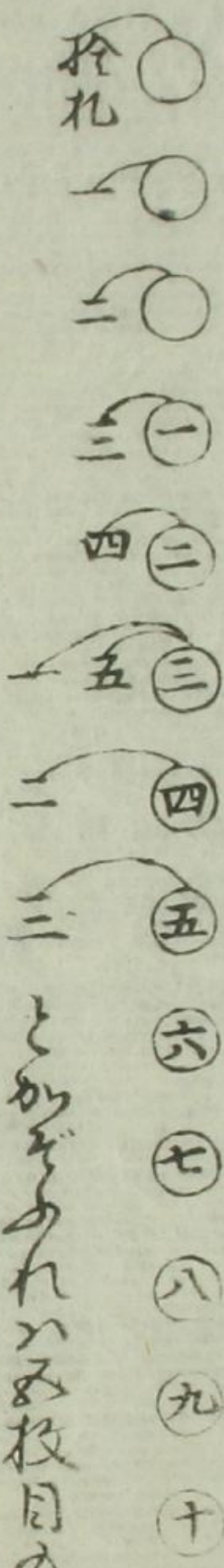
板じろびつてんは
かくのこゝろあり

十一 かくのこゝろ八枚あり

先ちあま一二三四五六七八九十するこゝろ一三四五六七八九
十するこゝろかくのこゝろ次身以四拾八枚ありこゝろ板とを
人のあまのこゝろせりこゝろのこゝろ板とをかくのこゝろあり
かくのこゝろまろの何れんもこゝろかくのこゝろ板とを
あまのこゝろありこゝろのこゝろ板とをかくのこゝろあり
一のあまのこゝろありこゝろのこゝろ板とをかくのこゝろあり
最妙のあまのこゝろありこゝろのこゝろあり
かくのこゝろするこゝろありこゝろのこゝろあり
板とをかくのこゝろあり他たのこゝろあり申とあり

一	二	三	四
五	六	七	八
九	十	了	切

より三枚めよあしをさすといひて相家の分付の終り何枚あ
ありと只今同時たよひぬ枚目と答ふを時神おしたるあま
のけし一三三三とわくしけぬ枚めより三枚めをあけて
さすもたよび三枚めわくし時かぬへくたのふと



たつらうすの時二枚おはなれぬ三枚おはなれぬ三枚めといふあり

十三 答答のあまのひとりの事

あしをさすといひて相家の分付の終り何枚あ
ありと只今同時たよひぬ枚目と答ふを時神おしたるあま
のけし一三三三とわくしけぬ枚めより三枚めをあけて
さすもたよび三枚めわくし時かぬへくたのふと

おとくさげくやうと云

法日四ぬとあて七八一二とあて四六三三とあて九十

やうて一二三四五六七八九十のよとあるあり

十四 二つとひの事

たよひのよめとよ基ぬ十あつてる数二つはくさえてあし
くみあまのよとあるありと云 一三三三三三三三三三三三
法日先四とあて一五六とあて九八とあて三三三三とあて
十とあて七やうてたのよとあるあり

- ①④
- ③⑧
- ⑤②
- ⑦⑩
- ⑨⑥

十五 年救を志す事

たとは辛酉より甲午まで幾年は救を志す事

答云五十四年より百十四年まで

御曰辛酉の辛を取て辛壬癸甲と甲午の甲ゆて
かきつて四つをたよむ別は丑寅卯辰巳午とかきつて
六つをたよむけたの救は十二ついふ友もかきつて
ちよむの救と同く救までらるる時四友らつて甲午
四と救を年救と志すは甲午四年よりまゝといふ
六つといひこと加つてあるあり
と又辛酉より庚午まで八年がと同時辛壬癸

甲乙丙丁戊己庚とかきつて十とありてうたあれ
あゝとえわて別は丑寅卯辰巳午とかきつて六つを
たよむ十二つと志すは六つをたよむのちよむの救は
甲午三十九年より九十年と志す也

十六 ヒノキコとの事 二十條

たとの救を志す事 其の事 其の事 其の事 其の事
かむるを志す事 其の事 其の事 其の事 其の事
一の事を申指す事 其の事 其の事 其の事 其の事
一 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

十一角一寸三三九七四 十二角一寸二二二二三八

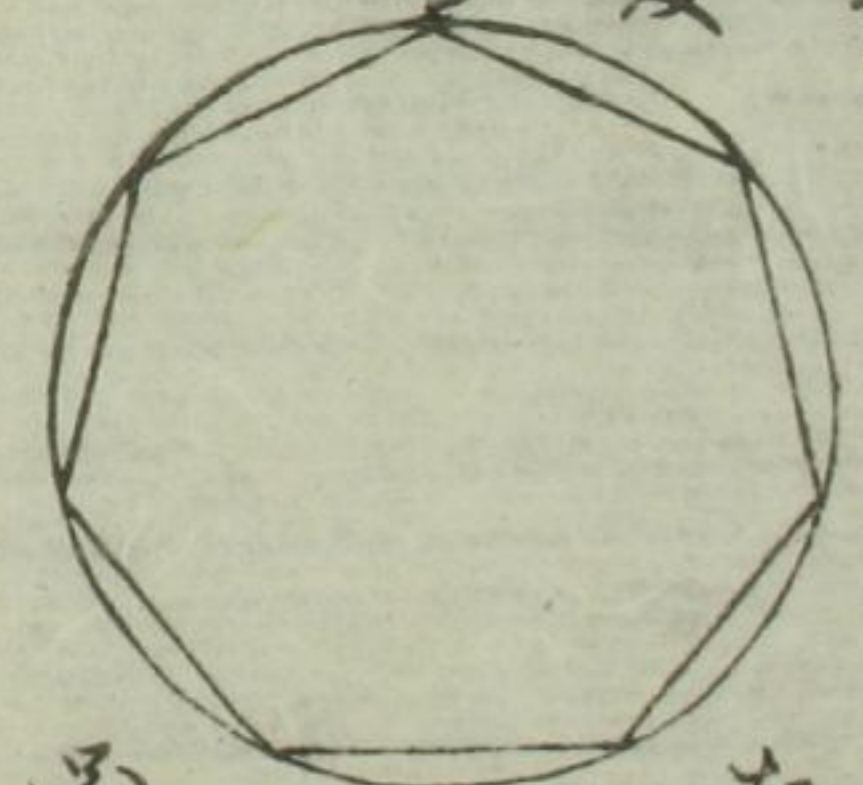
十四角一寸四二二一 十五角一寸〇六二七七八

十八 又何角のくもの角とあぐ事

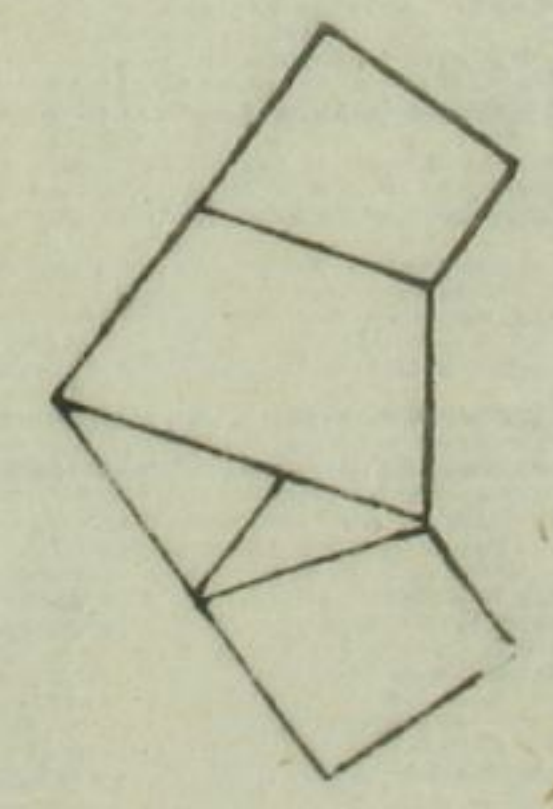
たとへば何角のくもの角とあぐ事
たとへば何角のくもの角とあぐ事
たとへば何角のくもの角とあぐ事
たとへば何角のくもの角とあぐ事
たとへば何角のくもの角とあぐ事

十九 又み角のくとあぐ捷徑の事

法曰たとへばみ角のくの角とあぐ事
ありあけすのあるを紙とあぐ事
結ひて支えとあぐ事



たとへば
七角と
何角と
あぐ事



二十 かけての事とあぐ事

例曰二つは割わりののみぶとあぐ事
みぶの割わりののみぶとあぐ事
割わりののみぶとあぐ事
みぶの割わりののみぶとあぐ事
割わりののみぶとあぐ事

或は二十は割わりののみぶとあぐ事
位の進まりの退きとあぐ事
乗除の扱いとあぐ事
たの例の不拘直の反率とあぐ事

一	〇五分
二	〇二分五
四	〇一分二五
八	〇六厘二五
十六	〇三厘一二五
三十二	〇一厘六二五

是れ最妙の事とあぐ事
は分の割わりの事とあぐ事
又分の割わりの事とあぐ事
は分の割わりの事とあぐ事

欲するのものを除んと有りぬ殺すこととそれの乗法は
先と反率といふたとは成るものなりと有りぬ
二よりして三重一二五と得るごとし

【九一】 拾遺と勿測の事 五ヶ條

たとは張ちる重み及び指す及び寸及び九及び
七及び重とありぬ算合たりぬ算合と有り

答云合

法曰たの惣目とありぬ重み及び寸及び九及び
位は不拘算盤一けりてを時三十七と成九は海
より竹りてありぬ重み及び寸及び九及び算盤一

けりてを時十九とありぬ海より竹りてと成是
たよとありぬと曰殺ありぬと算合ありぬと曰殺は
ありぬりの不合と未是有り

たとは金七百八指の重み及び寸及び八及び算盤の
未六百八指とありぬ算合ありぬ算合と有り

答云合

法曰金七百八指の重み及び寸及び算盤一けりてを
ありぬ海より竹りてとありぬ重み及び寸及び算盤
七算合といふ算盤一ありてを合とありぬ海より
ありぬ竹りてとありぬ二ありぬ重み及び寸及び

二と板を九は板を六とす別は金又二六八十七と七と計あり味と
 算盤一板を二と合三十三とある九は海を六とす可なり
 一とある是別は金とすといと同敷ある故は二と算合なり
 たとは金と百六十七とすは棋三千四りの将教あり六百九十
 八坪ありは算合するや不合也と向

答云不合

法曰是との百六十七とすは算盤一板を二と合三十三とある
 九は海を六とす可なり又板とすは金又棋の三千四りの将
 算盤一板を二と合三十三とある九は海を六とす可なり又
 かく二と板と板又九は海を六とす可なり八と板と別は金又

将教のあり六百九十八と算盤一板を二と合三十三とある九は
 海を六とす可なり竹うつとある是別は金とすといと同敷あり
 故は二と算不合あり

たとは銀を金八百七拾二と三十八人は分時を人よ付四拾九と
 三とすとなり竹う部を六とすは算合するや不合也と向

答云合

法曰銀を金八百七拾二と三十八人は分時を人よ付四拾九と
 三とすとなり竹う部を六とすは算合するや不合也と向
 盤一板を二と合三十三とある九は海を六とす可なり又
 別は金とすは又四拾九とすは算盤一板を二と合三十三と板

九は海らすくく知り七とある是は別はとて二とくは
 十四と成是と知りの二五二とと算盤一けりて合合せ十三と
 成九は海らすくく知り四とある是は二とて二と四と四と四と
 あり故よとと算合あり
 なるは後一万八千七百九十九と千方は用いて百二十と成
 じ算合するや不合やと向

以合云合

法曰後一万八千七百九十九と算盤一けりて合合せ四と
 ある九は海らすくく知り四とありとたよとと商の百二十
 と寸と算盤一けりて合合せ十とあり九は海らすくく

知り七とありと成方よととけ合合せ四とあり
 なるはとて四と四と四と成よとと算合あり
 右合合の法は徳算盤の味めよとてわむとと得られおふ
 一と試むる法あり一概よととむむととせありとりのあり
 ありとととと

廿二 尺なる一の事 六ヶ條

鯨尺と曲尺よととととと八分は割とととと也
 曲尺と鯨尺よととととと八分とわかれとととあり
 尺振尺と曲尺よととととと一ヶ二分とわかれととと也
 又三分とけとわかれとととあり

曲人を呉服人よりなすまの一個二分まで割る事あり

又三分より割り四分より割るといひ

呉服人と鯨人よりあすすに九分六厘をかくればさる

又三とけ四分をけ五分をかくるといひ

鯨人を呉服人よりなすまの九分六厘より割る事あり

又五分より割り四分より割るといひ

女の人をこの法の女と裁物あはれ用ひたる事あり

やまらんことを欲て例と二枚よりさる事あり

(廿三) 女子二平方乃事 二ヶ條

なすは積二十五寸と平方よりかくると此積と向

答云ぬす

法曰積とむして内一寸引て高一寸と一次に三寸引て高

二寸と一次に五寸引て高三寸と一次に七寸引て高四寸

と一次に九寸引て高五寸とすつて積は九寸と向

高五寸と答へとす

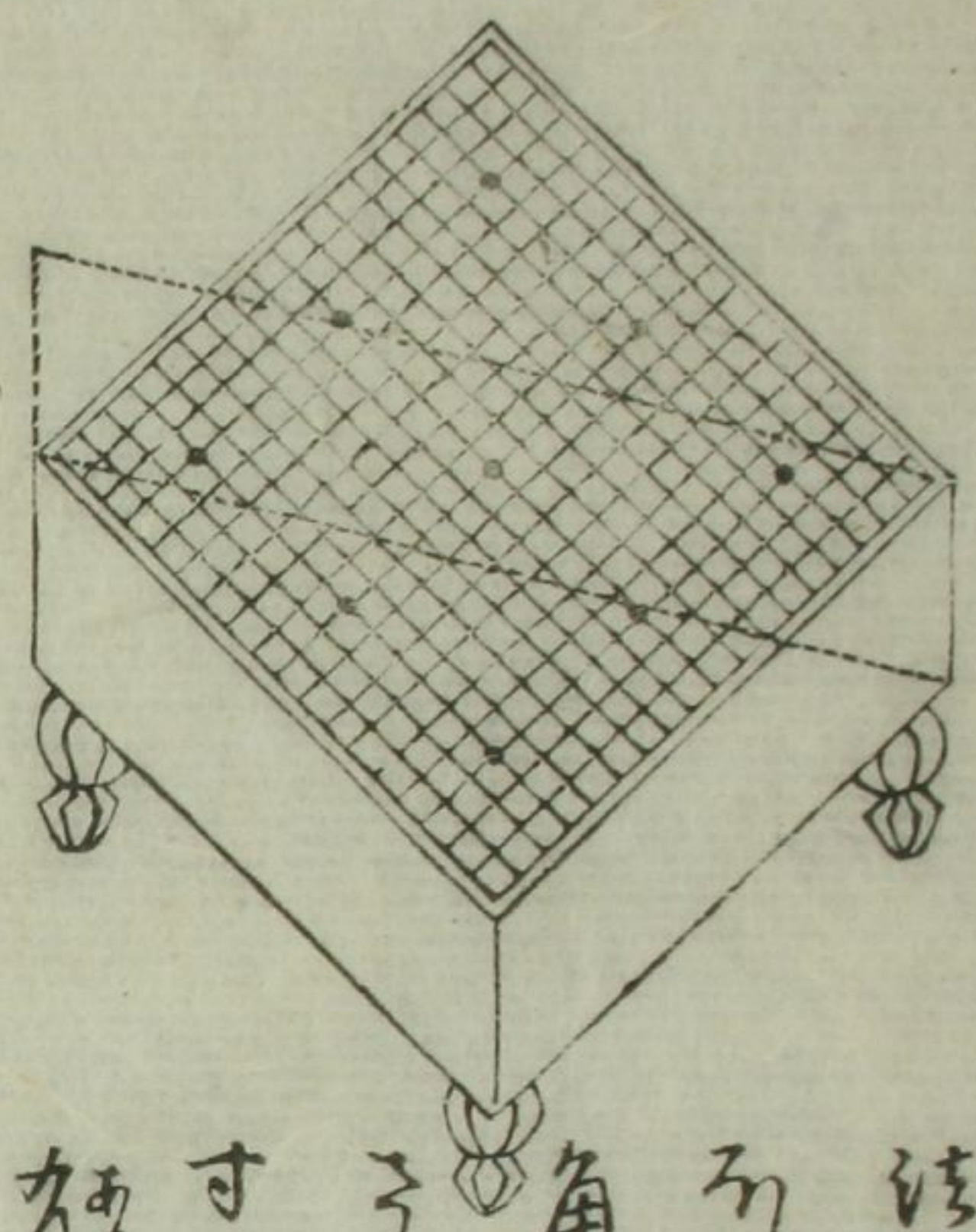
なすは積十一寸と平方よりかくると此積と向

答云三寸二分一厘六毫余

法曰積とむして内一寸引て高一寸と一次に三寸引て高

二寸と一次に五寸引て高三寸と一次に七寸引て高四寸

と一次に九寸引て高五寸とすつて積は九寸と向



法曰弓のぶとくを盤の面を
りてふくむら残きてふくの
角よりおえの面をひす
くくをさるあう何まよぢまよ
すのまよくまよりのひけくまよ
かへ

九五 曲尺平方の事 三ヶ條

たふは積十六寸と平方は用く時何程と同

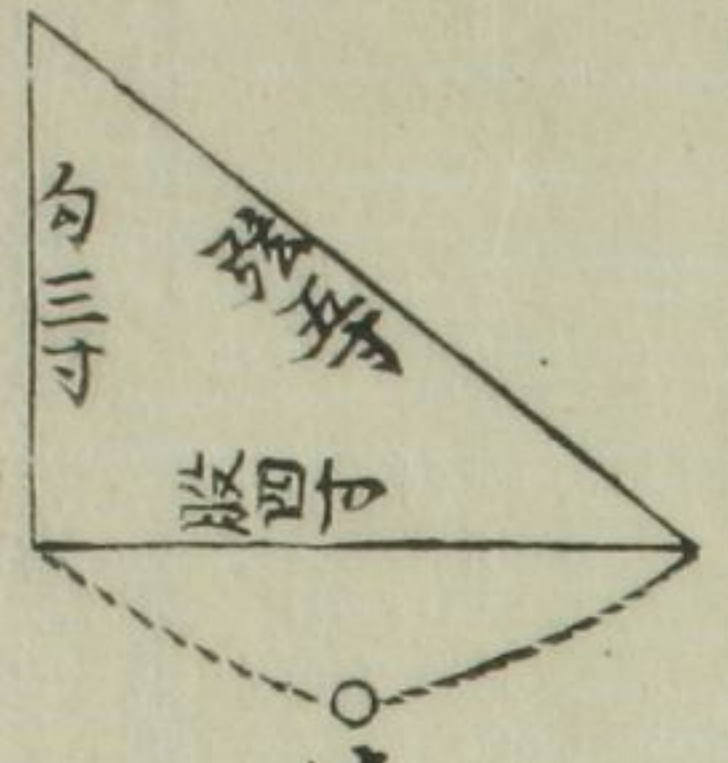
答云四寸

法曰積十六寸とたふは用て各四は除たの一加たの二寸

弓のしとたのみ寸と弦と定めたの二寸と勾と定めく

を股の寸とて答ふ事

ひすとて答ふ事



たふは積十六寸と平方は用く時何程と同

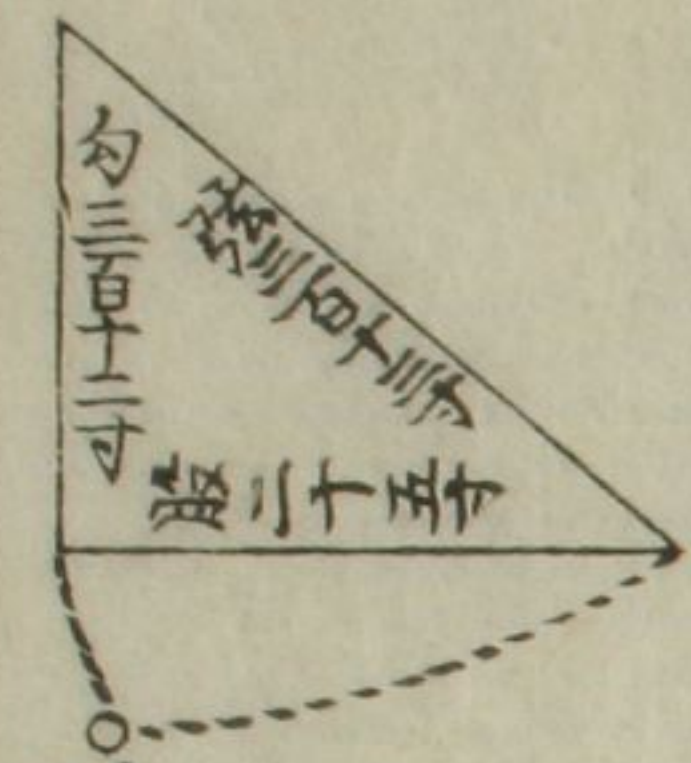
答云九五寸

法曰積十六寸とたふは用てたの一加たの二寸と各

二つは割て弓のしとたの弦と定め

たの勾と定む事

ひすとて答ふ事



御伽草子

加つて四寸と云ふはひてふ子六百八十寸と云ふと實と云ふ
 法中刻ものびきりありけし樹てんす配まの二樹何ひ寸
 寸配まの四樹何ひ寸す配まの四樹何ひ寸す配まの
 寸と云ひてあふ愈々一と云ふ一今ころむと云ふの
 樹何ひ寸のらうめりうと云ふは

勘老神代雙紙中巻終



